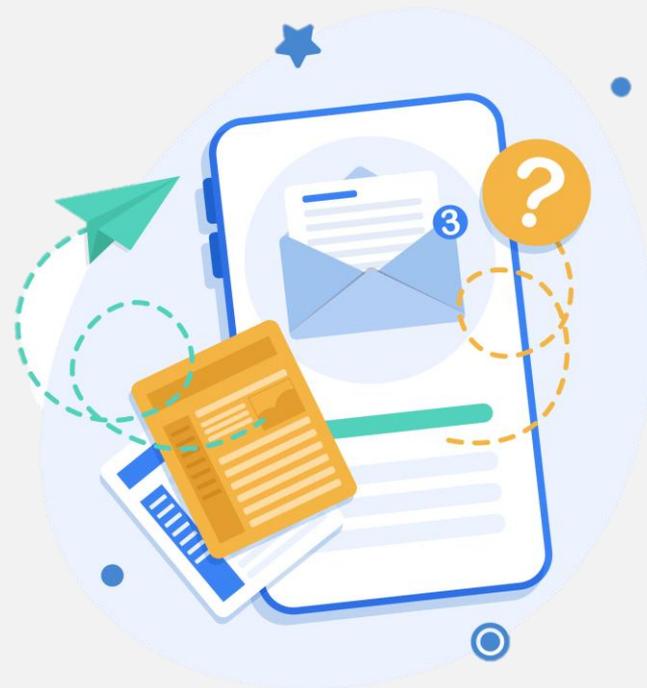


BIMIによる メールロゴ表示に 必要な証明書とは？



1. はじめに
2. 「ロゴ所有証明書」とは
3. ロゴ所有証明書の種類と違い
 - ① VMC(企業ロゴ所有証明書)
 - ② GMC(行政ロゴ所有証明書)
 - ③ CMC(先使用ロゴ所有証明書)
 - ④ MRMC(修正ロゴ所有証明書)
4. 導入の流れ
5. まとめ

はじめに

急増するフィッシングメールを“ロゴ表示”で対策

昨今、日本を標的としたフィッシングメールが急増しています。実際に、フィッシング報告件数が2024年時点で、170万件を超えました。さらに、**2025年では9月までの合計件数のみで、2024年の累計を超えるほど増加**しています※。その背景には、フィッシングキットの普及や、生成AIの進化による正確な日本語文章の生成などが挙げられます。

このような中、フィッシングの被害を抑えるため、ユーザにフィッシングメールが受信BOXへ届かないようにする設定や、本物か偽物か判断しやすくなるような対応が求められています。そこで注目を集めているのが、**メールへのロゴ表示**です。

本資料では、**BIMIによるメールロゴ表示に必要な電子証明書とは何か、その種類やどのような違いがあるのか**などを解説します。

※フィッシング対策評議会「月次報告書 フィッシング報告状況」から引用

「ロゴ所有証明書」とは

メールロゴ表示で“見える安心”を提供

DMARCによる認証が成功して受信したメールに対し、BIMIによって**送信元のロゴ**を表示する上で**必要な電子証明書**です。また、ロゴ所有証明書の種類によっては、ロゴだけでなく、認証済みのマークも表示されるメールサービスもあります。



組織の価値が向上する3つのメリット

セキュリティ

フィッシング なりすまし対策

ロゴ表示や認証済みマーク表示によって、正しい送信元を示し、**受信者は届いたメールの真偽を容易に判断**できるようになります。結果として、受信者のフィッシングによる被害を抑えることが可能です。

マーケティング

マーケティングROI の改善

ロゴ表示より、受信者は重要なメールも見逃しづらくなります。また、海外の事例では、ロゴ表示をする前後で、**メールの開封率が平均39%^{※1}改善**し、コンバージョンも改善されたと報告されています。

ブランディング

ブランドの信頼性と 認知度の向上

海外の事例では、**ロゴ表示をする前後でブランド想起に約44%^{※2}の差**が生まれたことが報告されています。日々届くメールにロゴ表示することで、**ロゴとブランドを効率よく紐づけ**、ブランドの認知度を高める効果があります。

※1 PALISADE 「How to improve your open rates by 39% with BIMi」 から引用

※2 PALISADE 「Case Study: We increased gaiia's meetings booked by 21%」 から引用

ロゴ所有証明書の種類と違い

VMC(企業ロゴ所有証明書)

VMC (Verified Mark Certificates) は、**有効な状態で商標登録されているロゴを所有する組織であれば申請可能**な証明書です。

受信するメールサービスによって、商標ロゴだけでなく、認証済みマークが表示されるため、送信元がロゴとドメインを所有していることを視覚的に証明します。

ロゴの商標登録

必要

認証済みマーク表示

あり

主な発行対象組織

商標登録が
有効な状態である
ロゴを所有する組織

対応メールサービス

Gmail
auメール
Fastmail

※2025年11月時点で、グローバルサインのVMCが対応しているメールサービスの一覧です。

GMC(行政ロゴ所有証明書)

GMC (Government Mark Certificates) は、公的な法令や条例などで、**政府機関・省庁・地方自治体・地方公共団体などに所有が認められている**、または**所有を主張できるロゴであれば申請可能**な証明書です。

VMCと同様に認証済みマークが表示されますが、**商標登録がなくとも申請可能**です。

ロゴの商標登録

不要

認証済みマーク表示

あり

主な発行対象組織

政府機関・省庁
地方自治体
地方公共団体

など

対応メールサービス

Gmail
auメール
Fastmail

※2025年11月時点で、グローバルサインのGMCが対応しているメールサービスの一覧です。

CMC(先使用ロゴ所有証明書)

CMC (Common Mark Certificates) は、**商標登録がされていないロゴでも申請可能**な証明書です。

ただし、**まだ他社に商標登録がされていないこと**と、**現在含めて申請組織のウェブサイト**で**1年以上使用されていること**が条件になります。

ロゴの商標登録

不要

主な発行対象組織

商標未登録の
ロゴを所有する組織

対応メールサービス

Gmail

認証済みマーク表示

なし

※2025年11月時点で、
グローバルサインのCMCが対応している
メールサービスの一覧です。

MRMC(修正ロゴ所有証明書)

MRMC (Modified Registered Mark Certificates) は、**商標登録されているロゴから、修正・改変が加えられているロゴであれば申請可能**な証明書です。ただし、修正・改変には、文字要素の改行や表示位置の違い、色彩の相違など商標の種類など規定の範囲があり、その範囲によって申請可否が異なります。

ロゴの商標登録

不要

※修正元のロゴは商標登録が必要です。

認証済みマーク表示

なし

主な発行対象組織

ブランドリニューアル
でロゴを修正した組織

メール表示にあわせて
ロゴを修正したい組織

など

対応メールサービス

Gmail

※2025年11月時点で、グローバルサインのMRMCが対応しているメールサービスの一覧です。

Gmail (スマホアプリ版)

VMC・GMCの場合



CMC・MRMCの場合



	ロゴ所有証明書	SANオプション
価格	180,000円	144,400円
他社価格	234,300円	234,300円

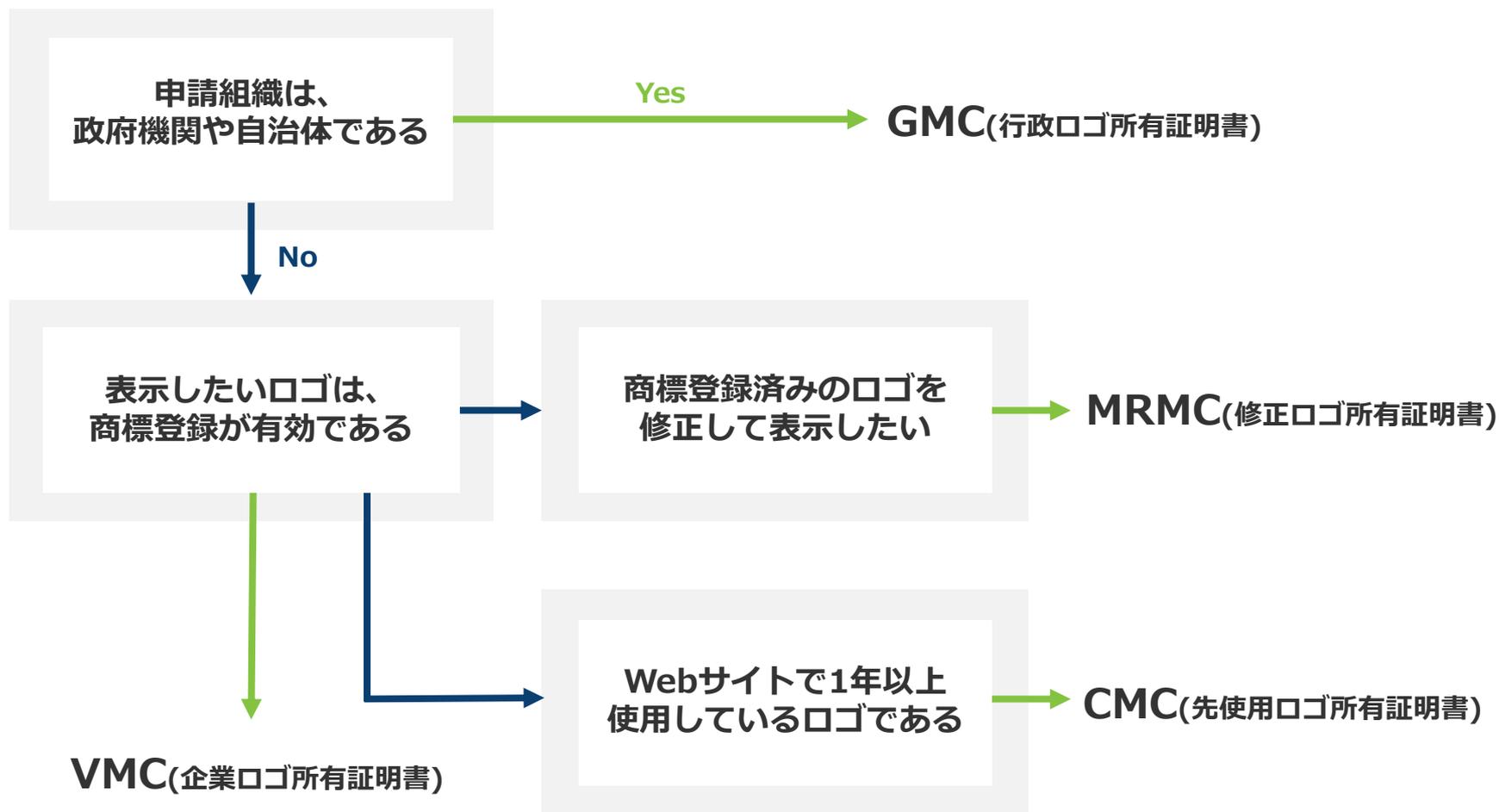
※ロゴ所有証明書には、VMC・GMC・CMC・MRMCすべて含めます。 ※証明書の最大有効期間は1年です。

Q 「SANオプション」とは？

1つのロゴを複数ドメインで表示したい場合に、SANオプションで1枚の証明書にまとめることで、ドメインごとで1枚ずつ分けて証明書を購入するよりもリーズナブルに導入できるサービスです。

※サブドメインのみ異なる場合は、SANオプションは不要です。

導入の流れ



※上記の基準は目安になります。上記に当てはまらない場合など、証明書の選択にお困りの場合はお気軽に[お問い合わせ](#)ください。

証明書申請前

DMARC設定

ポリシーを「quarantine」あるいは「reject」に設定する必要があります。

ロゴの商標登録

ロゴの特許庁の登録ステータスが有効となるようにします。※VMCとMRMCのみ対象

証明書申請

審査の対応

- ①必要書類の提出 ②電話やビデオによる審査
- ③利用ドメインの認証 の対応が必要です。

証明書発行後

BIMIの設定

発行された証明書と申請時に使用したロゴ画像を指定するようにBIMIレコードを設定します。

証明書の設定

発行された証明書と申請時に使用したロゴ画像を公開サーバへ設定します。

※具体的なお申し込み方法の流れは[こちら](#)を参照ください。

まとめ

メールへのロゴ表示を実現する“ロゴ所有証明書”

フィッシングメール対策だけでなく、メール送信元組織の信頼性向上や、開封率・ブランド認知度の向上へと繋がる技術が、**メールロゴ表示規格の「BIMI」**と、**ロゴとメールドメインの所有を証明する「ロゴ所有証明書」**になります。

GMOグローバルサインでは、VMCの他にも各種ロゴ所有証明書をご用意しておりますので、ロゴの商標登録の状況などに合わせて、最適な証明書の選択が可能です。証明書に関してご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

メールロゴ表示に関する、さらなる詳細な説明は以下をご確認ください。

- 📄 VMC(企業ロゴ所有証明書)とは？
- 📄 メールロゴ表示で注目の「BIMI」とは？
- 📄 VMC(企業ロゴ所有証明書) byGMO サービスページ



ロゴ所有証明書に関するお問い合わせ

03-4545-2300 (受付時間 平日10:00-18:00)

<https://jp.globalsign.com/vmc/>



GMOグローバルサイン株式会社

〒150-0043

東京都渋谷区道玄坂1-2-3 渋谷フクラス

<https://jp.globalsign.com/>

